

平成 31 年度 公益財団法人 地域開発研究所 事業計画

(1) 奨学金給付事業

前年度は新たな応募者がいなかったため、現在奨学金給付を行っている大学生 5 名に対し、継続して支給を行う。また、前年度に引き続き、現役学生のみではなく社会人や一定の目的をもった活動を目指す者を対象とした奨学金の給付も検討していく。

(2) 地域開発事業

・地場産業品（サフラン）商品化に対する助成

地場産業品としてサフランを商品化する事業について、事業者は、前年度に引き続き最大の生産地である竹田市とタイアップして活動している。事業者においてサフランの株分け作業を行っており、今後はその株分けしたサフランを使って花芯を取り、その花芯を用いて地元産サフランのブランド化を目指す計画であるとのこと。この事業に対し、引き続き助成を行っていききたい。

・大湊興業(株)に関わることがらと人物の編纂

大湊興業(株)の創立 100 周年に際し、大湊興業(株)に関わることがら篇と人物篇とを編纂し、世に出す事業を行いたい。設立時の有識者数百人と株主 1,500 名以上を集めることは驚異に値し、大湊興業(株)の設立が東北開発に果たした意味は大きい。調査費は大湊興業(株)からの寄附金とし、当代の研究者らを集めて事業に着手し、数年をかけ実らせたい。

・地域医療に関する取り組み

地域医療に対し、積極的な事業、支援を行っていききたい。具体的な内容は検討中だが、地域医療、遠隔医療、介護の問題に関して、脇野沢をモデルに、大湊以西の医療のあり方と絡めて検討していききたい。

(3) 調査研究事業

・港町の土地調査

港町の物件を特定させるための土地調査事業に対し、支援を行っていききたい。当財団で寄附を募り、土地調査を行う事業に対し、調査費用として助成していききたい。最終的に、本来の港町の土地所有者の構成について明らかにしたいと考えている。

・大湊水電、大湊電燈等に関する調査

下北半島に於ける電力の起こりと成り立ち、今日迄どのような流れであったのかを調査し、冊子にしたいと考えている。電力問題は、下北半島の直接のテーマであり、懸案でもある。東北電力や電気事業連合会に働きかけながら、調査を行う事業があれば、支援を行いたい。

- ・ 明治時代の大湊開港についての研究に対する助成
前年度に引き続き、大湊開港についての研究（明治から戦後まで）に対し、支援をしていく。
- ・ 研究テーマ（斗南藩・下北半島史・原子力政策）に対する助成
前年度の事業計画にも挙げていたが、青森県に関係する公益目的に沿ったテーマとして、斗南藩以来の下北半島史を取り上げていきたい。斗南藩については郷土史家が研究しているものが沢山あり、小説の類としても出ている。当財団では、会津、斗南藩の歴史を明治政府の側に立った歴史ではなく、本当の史実というものを研究し、それを解説、説明し、広く世の中に知らせる活動を行いたいと考えている。斗南藩の前史と後史、会津や二本松と長州との関係から始まり、斗南藩の二年間、そして其後の今日迄の開発と挫折を学び、最終的に今日のテーマである原子力と真剣に向き合う地域となるために、学ぶ機会を設けていきたい。原子力について学ぶに当たり、下北原子力勉強会の活動のみならず、原子力の勉強会に関わる様々な事業に対し、引き続き支援を行っていきたい。

（４）自然保護事業

- ・ 植樹事業に対する支援
NPO法人GEMBUの植樹事業に、継続して支援してきており、学校や公共施設への植樹祭を中心とした活動の支援をする。
- ・ むつ湾海岸のごみの回収、美化事業への支援
毎年２度行われているごみの除去、海岸線の美化に対して、トラック十数台分の不法投棄ごみが毎年取り除かれている。この継続して行われている活動に対して、付近の町内会のみならず学校関係者（児童やPTA）に広がりを見せている。この活動の費用を負担することによって、同事業の継続を支援していく。
- ・ 県内に於ける主たる花の一つであるハマナスの集団育成と観光開発に対する支援
ハマナスの集団育成については目標として掲げている10万本の半分以上の植栽を終えている。植樹用のハマナスの苗の育苗作業も順調に軌道に乗り始めている。また、ハマナスの商品化については、よりよい商品の開発に向けて更なる調査、研究を開始したところである。ハマナスの集団育成、商品化についての援助、助成は、申請があれば今年度も引き続き行っていく計画である。

以上